

暑さにはハートの熱さで

「夏休み 森林環境教育」

高知市の小学校やふれあいセンターからの講師依頼を受け、「夏休み 森林環境教育」が始まりました。

初日は、七月二三日（水）浦戸ふれあいセンター（高知市）で実施。（写真上）

現代社会では、児童たちが森林や林業に親しむ機会が少ないことから、「森林のはたらき」を児童たちとトーク形式で話しあったり、木を使った作品にも挑戦。（写真下）

講師依頼は、小学校児童クラブから一四校、ふれあいセンター等から八箇所、参加児童（保護者含む）は約八〇〇名を超える見通しです。

このため今年も、指導にボランティアの協力も頂き、スタッフ一同熱き思いで森林環境教育に取り組んでいます。



誌上 森林環境教育

「森からの恵み」

身近な日常生活の中で、さまざまな種類の木材がいろいろなものに利用されていることを実感する。

準備

- ・木製品
まな板、匏（かんな）、版木（はんぎ）、おもちゃ
- ・木の材
スギ、ヒノキ、ブナ、カシ、イチヨウ、

手順

探してみよう

- ・学校の中で、木材が使われているもの
- ・家で使っている物を出し合ってみよう

さわってみよう

- ・木の製品を見てさわって比べてみよう

参考

- ・まな板 = イチヨウ、ヒノキなど
- ・匏（かんな） = カシなど
- ・版木（はんぎ） = ホウノキなど
（大日本山林協会 日本の森林と林業より）

編集後記

本号で50号に。過去を振り返りつつ、新たな「おくりもの」へ。引き続きご愛読のうえ、ご意見もお寄せください。 技術普及課一同



「林業の機械化」って



林業の機械化は明治中期頃から

紀州尾鷲地方において、1889年頃（明治22年）からヤエン（野猿）と呼ばれるものが木材搬出に。これは、鉄線を尾根筋の適地から谷筋の道路まで張り渡してその鉄線に荷を吊って、その自重により線上を滑走。それが空中に架線を張り渡して材を吊り上げ搬出する方法（架線集材）へと発展。1896年（明治29年）には、神奈川の御料林において木軌道による木材班出が行われ、これらを初めとして軌道と架線による運材での機械化が始まる。

その後1909年（明治42年）には、我が国初の森林鉄道が津軽に開通。

我が国の林業の機械化は、運材部門において、明治中期頃から、戦後の復興期における荒廃林地の復旧、造林の諸施策とともに林業の機械化が積極的に推進。

特に、1954年（昭和29年）、北海道を襲った洞爺丸台風により発生した風倒木処理のためにチェーンソー、トラクター、集材機など大量の機械力が導入され、林業における機械化が大きく進展。

（森林総合研究所HP 森と木のQ&Aより）